

技術の進歩やそれを活用した多様なアプローチによって、これまで見えていたものが見えるようになっている。見えてることで理解が進み、よく分からなかった不具合の原因が明らかになれば解決につなげることもできる。「注目！スタートアップ中部」の第2回は、ヒトの感情の見える化によって社会の様々な課題解決を目指すOlive（株）（代表：竹内精治氏）を取り上げる。

企業経営において、「見える化」は古くて新しい課題である。いまでも関連する書籍は多く出されているし、コンサルタントが最初に取り掛かるようなテーマでもあるが、一子相伝かのような職人の技術など数値化するのがとても難しいものもある。日常の業務プロセスでも、いつ・誰が・どういう作業をして・どういう成果が得られたか、についてはある程度見える化できるし、パフォーマンスの良し悪しも把握できる。ただ、成果の波が発生する原因は何なのか、作業ミスが多かったのはたまたま片づけてしまつていいのか、そこまで踏み込もうとすると難易度は上がる。

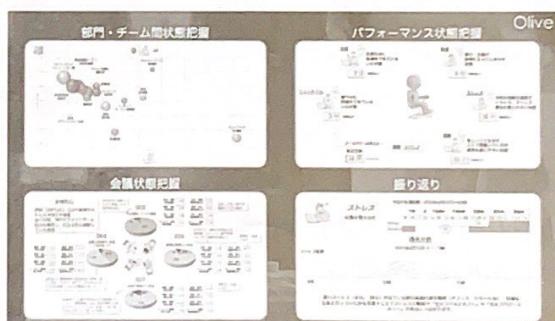
当社が取り組んでいるヒトの感情の見える化は、こういった従来ではなかなかつかみきれなかった「なぜ」を見つけられるアイデアであり、技術である。

感情を読み取るとなると、まず思いつくのは表情を分析することだ。我々自身、目の前にいる人の“状態”を表情から察することが多い。しかし、「表情はウソをつけるんです」と竹内社長が話すように、作り笑顔やウソ泣きで本当の状態を隠してしまうのも人間だ。また、声も感情を表すものだが、リモートワークなど一人でいるときには音声を発しないことが多いため、分析が難しくなることもある。竹内氏は、ウソをつけない心拍の変

動などの生体反応に着目。映像脈波抽出という技術で、カメラで生体情報を取得し、そこからAIを用いて喜怒哀楽や覚醒度、集中やリラックスの度合いなどを数値化する。ポイントは、計測用のデバイスをわざわざつけないこと、そして計測されていることを意識させないこと。カメラを使うといっても、そのために設置するのではなく、ノートパソコンやタブレット端末、スマートフォンなどすでに当たり前のようについているものを活用することで、負担を軽くすることができます。

この技術が活用できるシチュエーションはかなり多岐にわたる。人々が活動している場所であれば、何かしらの役に立つと言ってもさほど大げさではないよう思う。

健康経営への関心が高まるなか、従業員の健康への気配りは今まで以上に重要になっている。定期的な健康診断で得られる数値だけでなく、当社



リアルタイムで“感情”を把握でき、振り返りも可能

の仕組みを導入することでリアルタイムに従業員の状態を把握することができる。ここで目には見えない感情を見る化することで得られる効果のひとつは、ギャップの穴埋めにある。例えば、休職から復帰した従業員に対し、本人はいたって健康なのでもっと仕事をしたいと思っていても周囲が気を遣い仕事を抑制したり、逆に復帰してこれから頑張ろうと無理をしてしまうケースがある。見た目や意気込みだけでなく、ストレス度合いがデータで客観的に分かれば、適正な仕事量（ストレス）がどの程度なのかも見えてくる。また、このほかにも、仕事に集中できているかどうかの確認も可能で、それによって集中できる時間帯には個人差があることも見えてくるので、一人一人の作業効率向上にもつなげることができる。



「感情データの活用で様々な課題解決につなげていければ」と話す竹内社長

学習塾であれば、授業中の生徒の集中度合いがリアルタイムで分かるほか、生徒ごとでどんな科目のどんな内容のときに「没頭していた」か「散漫だった」かが把握できるので、アフターフォロー的確に行えるし、授業内容の改善ポイントも分かりやすくなる。小売店での活用は、店舗内のどの商品の前でプラスの感情が生まれたか、商品を眺めている人が「深く興味を持っている」のか「ただ見ているだけ」なのかといったことが分析できるので、店頭が賑わっている割には売り上げにつながらないという悩みの原因を見つけられるかもしれない。

遠隔地に住む年老いた両親が、いまどうしているかが気にならないという人はいないだろう。定期訪問してくれる介護サービスの人などの存在はもちろんありがたいが、当社の仕組みによって、バイタルの数値では分からない、いまの状態を手軽に知れれば安心感は格段に違うというものだ。

もうひとつポイントになるのは、カメラで撮られていることへの抵抗感を軽くできるかだろう。従業員向けに導入するのであれば、具体的にどういうデータを取って、どういった使い方をされるのかを丁寧に説明し、また社内でのルール作りも必要になる。当社の仕組みは、カメラを使ってはいるものの、生体データを取り込むだけで画像データを使わないでそこは安心材料ではないか。撮られているという負担感より、それを上回るプラスの効果が体感できれば、自然に溶け込んでいくと思う。

生体・感情の計測技術は、そのデータを人々の生活や仕事の環境改善に活用する技術として「ウェルビーイング市場」を形成し、ビッグデータをはじめとした世界中の企業が今後のメインターゲットとしている。「察してくれる社会の実現」を掲げる当社。まさに日本人が得意とする分野で、日本発の技術で世界を目指す。

▼当社のサービスに関する詳細、お問い合わせは下記URLよりご確認ください

URL : <https://www.01ive.co.jp>

会社HPの二次元コード



### 会社概要

Olive株式会社

TDB 企業コード: 574061381

法人番号: 6180001152668

本社: 名古屋市中区錦 2-4-15

設立: 2022年8月

代表: 竹内 精治氏

資本金: 873万1000円